

今週のコメント

- 手足口病の定点当たり報告数は1.85で、過去5年平均値(0.67)を上回り、これは、本年に入って最も多い報告数です。全国でも、報告数は、増加傾向にあります。
- アメーバ赤痢の報告が1例あり、本年の累積報告数は、11例となっています。11例のうち、10例が腸管アメーバ症、1例が腸管外アメーバ症です。

今週のトピックス:<百日咳>

- 第25週の定点当たり報告数は0.07(3例)で、過去5年平均値を上回る状況が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

発生状況

全数報告の感染症

- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- 五類:麻疹 14例【1月以降の累積報告数 65例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	4.39	180
	手足口病	1.85	76
	水痘	1.34	55
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	33
	ヘルパンギーナ	0.66	27
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<百日咳>

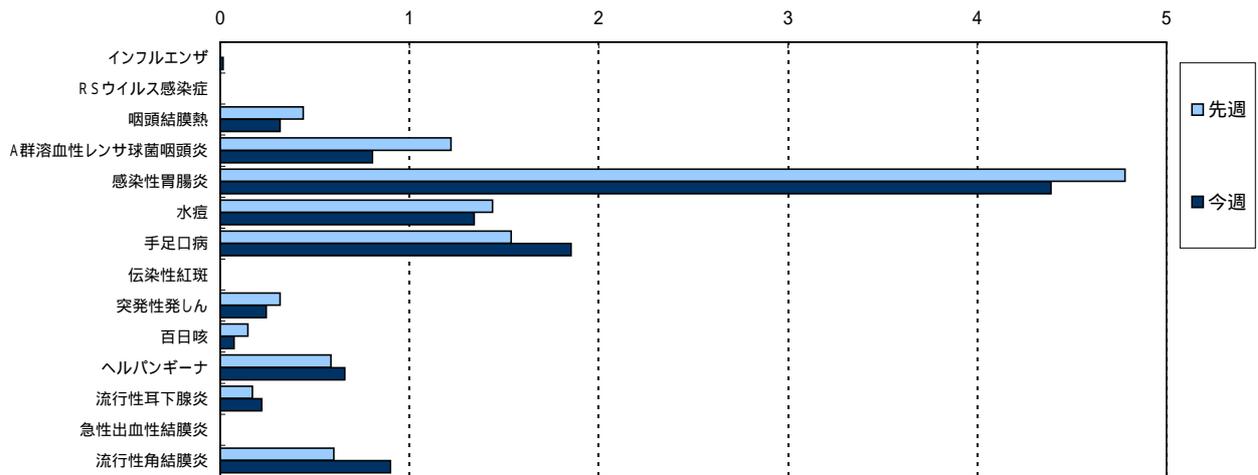
(注)京都市のデータは、平成20年6月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

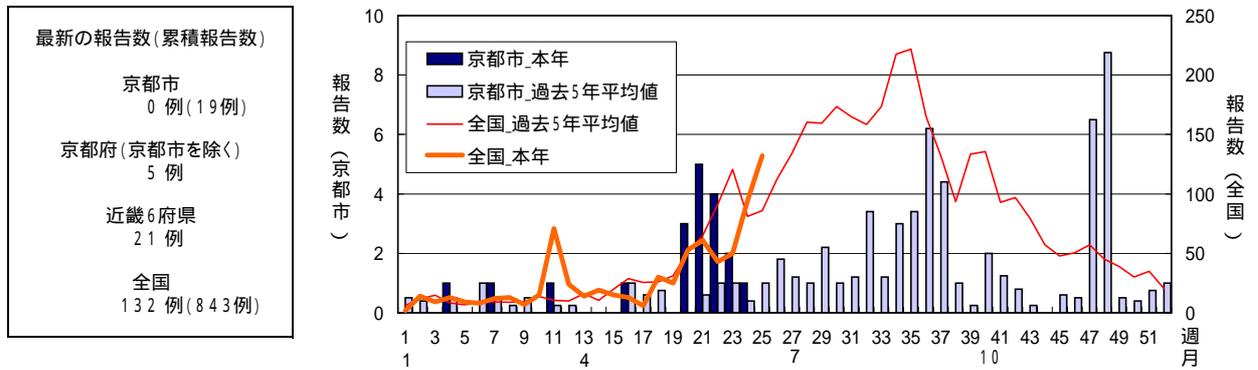
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

発生状況の概況グラフ

1 今週(第25週)と先週(第24週)の定点当たり報告数の比較

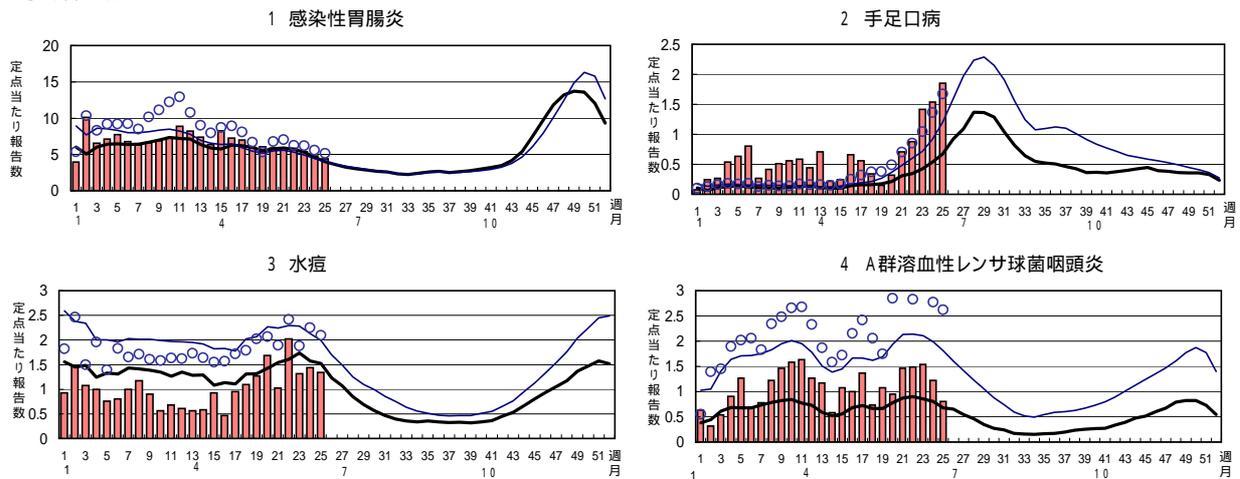


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

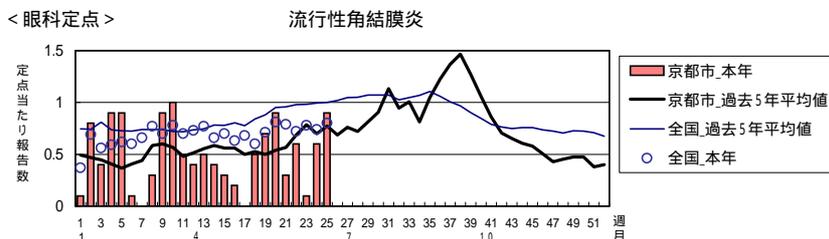


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第25週のトピックス: <百日咳>

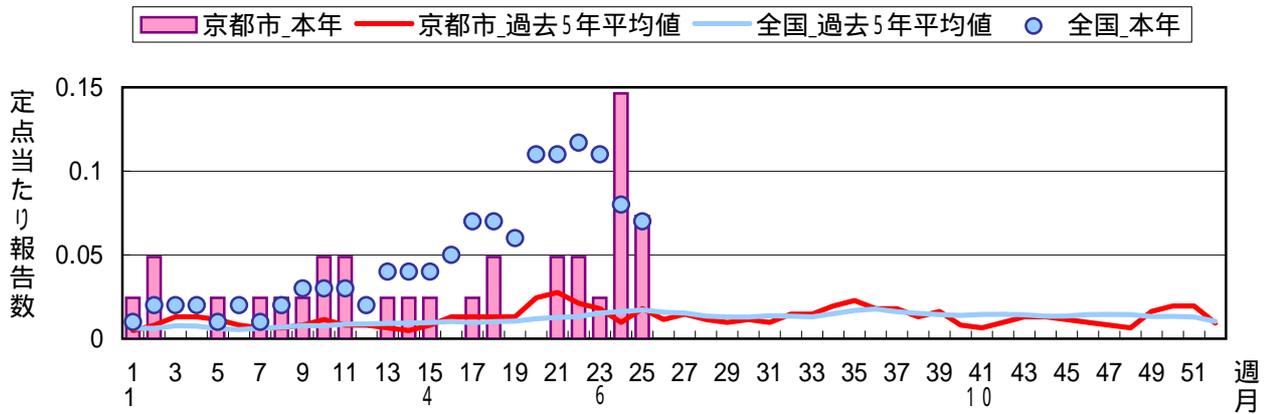
第25週の定点当たり報告数は0.07(3例)で、過去5年平均値を上回る状況が続いています。特に第24週の6例は、平成12年以降の週単位では、平成12年第34週の5例を越えて、最も多い報告数となっています。

平成12年から平成20年の同時期(第1週～第25週)の累積報告数を比較しても、本年の31例は、最も多い報告数です。

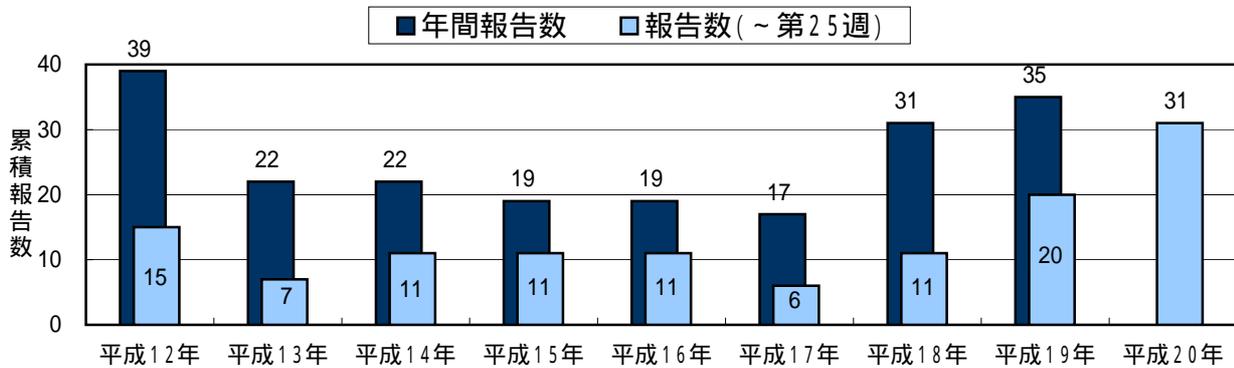
31例の内訳を見ると、男性が13例、女性が18例で、広い年齢層に分布し、特に20歳以上が全体の29%(9例)を占めています。

行政区(届出医療機関の所在する区)では、11行政区のうち、北、左京、東山、山科、南、伏見の6区から報告があります。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第25週)



報告数の推移(平成12年～平成20年)



年齢群, 行政区別累積報告数(平成20年第1週～第25週)

